

令和8年7月3日

学年： 第3学年

国語科単元名： 「登場人物の変化に気を付けて読み、
好きな場面について話し合おう。」

本単元における目指す児童像

〈分科会が目指す児童像〉

自ら課題を見付け、目的意識をもって学習に取り組むことができる子

〈本単元における目指す児童像〉

根拠を明確にして伝え合い、互いの読みのよさを生かし合う子

研究主題に迫る手だて



1 見通しをもって学ぶ工夫

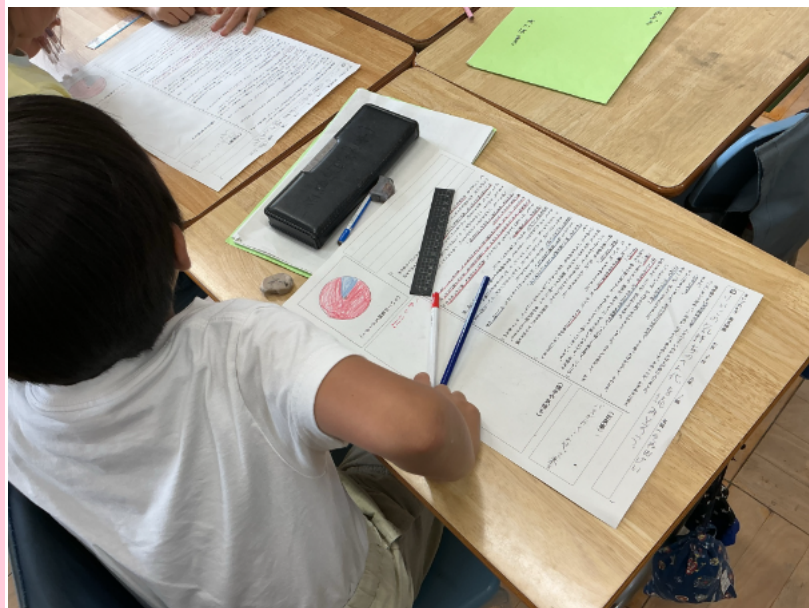
- (1)教材と出会うときに単元の目標を確認し、身に付けさせたい力を児童に明確にさせる
- (2)学習計画の掲示
- (3)初発の感想から学習計画を立てる
- (4)心情メーターの活用

2 目的に応じた音読の工夫

- (1)丸読みでの音読
- (2)家庭学習での音読

3 児童が学びを選択できる工夫

- (1)「好きな場面を伝え合う」という言語活動の設定



単元名： 登場人物のへんかに気をつけて読み、すきな場面について話し合おう

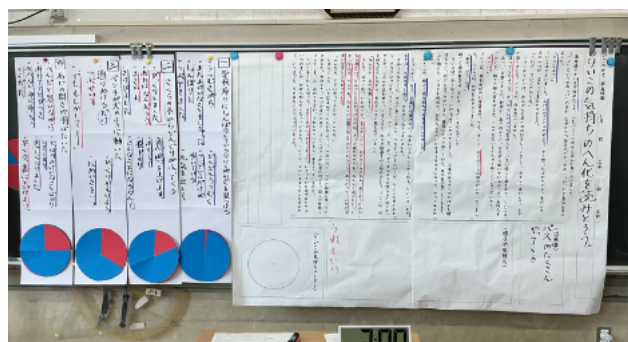
協議会の視点

- 1 りいこの気持ちを心情メーターで表し、気持ちの変化を可視化する活動は有効であったか。
- 2 「どんな気持ちだったか」を全体で確認してから、その根拠となる叙述に返って赤（明るい気持ち）、青（暗い気持ち）の線を引く活動は有効であったか。



指導の成果

- 1 心情メーターは心情を直感的に捉える有効な手だてになった。心情を赤（明るい気持ち）、青（暗い気持ち）で表現することで心情の変化の根拠となる叙述へ立ち返る姿が見られた。また、一場面と五場面の心情メーターの対比から、登場人物の心情の変化に主体的に迫ることができた。
- 2 心情を全体で確認することで見通しが立ち、登場人物の心情理解が苦手な児童も叙述を探することができた。赤、青の色分けによる可視化で心情の変容が一目で捉えられ、読みが深まった。



指導の課題

- 1 心情メーターは登場人物の気持ちを可視化することに有効だったが、時間を確保できなかったために児童が理由を整理することができなかった。
- 2 登場人物の気持ちを確認した後の色分けは有効だったが、文章量が多く全体の状況を把握しきれなかった。

改善案

- 1 児童の発言や場面ごとの丁寧な確認があれば、根拠に基づいた活動につなげることができた。
- 2 グループ活動での話し合いの時間をもう少し長く取ることや時間配分の工夫をすれば、文章の細部まで確認することができた。

指導講評

- 心情メーターは、目に見えない心情の変化を読む上で効果的であった。心情メーターは全ての教材に活用できるわけではないが、高学年に向けて自らの読みを深めるための学びのアイテムとして活用していくと、心情を言語化しやすくなるのではないか。
- 本文中にあった「目を輝かせる」という言葉の意味が理解できる児童は赤（明るい気持ち）であると分かっていたが、意味が分からない児童は判断に困っていた。言葉を手掛かりに想像を膨らますことができるよう言葉への理解を丁寧に行い、語彙を広げていくことが大切である。
- 文学的文章教材の読みでは、叙述から読み取ることができる解が一つではない。自分の経験と照らしたり友達との交流したりする中で、「いくつかある解の中で自分にとっての解はこの考えである」という「納得解」を見つけていく。